

実用新案登録願 (16)

昭和 55 年 4 月 14 日

特許庁長官殿

1 考案の名称

ヘッドフォン

2 考案者

住所 大阪府門真市大字門真1006番地
松下電器産業株式会社内
氏名 タニ グチ タカ シ
谷 口 尚 司

3 実用新案登録出願人

住所 大阪府門真市大字門真1006番地
名称 (582) 松下電器産業株式会社
代表者 山下 俊彦

4 代理人 〒 571

住所 大阪府門真市大字門真1006番地
松下電器産業株式会社内
氏名 (5971) 弁理士 中尾 敏男

(ほか 1 名)

〔連絡先 電話(東京)437-1121 特許分室〕

5 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 委任状
- (4) 願書副本

1 通
1 通
1 通
1 通

55 050653

152479

式
方
審
査

明 細 書

1、考案の名称

ヘッドフォン

2、実用新案登録請求の範囲

ヘッドフォンのアームを主アームとその主アームに回動可能に連結された副アームとで構成してなるヘッドフォン。

3、考案の詳細な説明

本考案はヘッドフォンのアームを折りたたみ可能にし、コンパクト性を持たせたヘッドフォンを提供するものである。

従来、ヘッドフォンはユニット部の位置調節器は備えているが、アームは略U字形で固定されており、このため全体の形を小さくすることができず、コンパクト性に欠けていた。

本考案は、上記のような従来のヘッドフォンの欠点を改善したもので、以下その一実施例について図面を用いて説明する。

まず第1図において、1は弧状の主アーム、2および3はそれぞれ副アームである。主アーム1

152479

と副アーム²2は支点4で回動可能に連結され、また主アーム1と副アーム3は支点5で回動可能に連結されており、全体として略U字形のヘッドフォアンアームを構成している。6, 7はそれぞれ副アーム2, 3に取付けられたユニット部、8はコードである。

前記支点4, 5部はその一方4部を第2図に示すように主アーム1および副アーム2はともに合成樹脂により形成され、それぞれのアーム1, 2に形成した段部1a, 2aを重ね合わせて支軸9により回動可能に連結されているとともに主アーム1に形成した突起1bに副アーム2が当接し、副アーム2は内方へは回動し得るが外方へは回動しないように構成されている。

そして、前記主アーム1と副アーム2はともに合成樹脂からなり、一体に複合成型される。すなわち主アーム1は成型収縮率がDの合成樹脂材料で成型され、また副アーム2は成型収縮率がDより小さな成型収縮率の合成樹脂材料で成型される。いま主アーム1を支軸9とともに成型し、これに



3

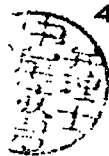
副アーム 2 を一体に複合成型すると第 3 図に示すようにその主アーム 1 と副アーム 2 は支軸 9 で連結され、そして副アーム 2 の成型収縮率が主アーム 1 のそれよりも小さいため支軸 9 と副アーム 2 との間に隙間が形成されるため、両者は回動可能となるものである。

なお、この主アームと副アームの回動可能な連結構成については他の構成によっても同様である。

このようにアームを回動可能に構成することにより第 4 図に示すように副アーム 2, 3 を支点 4, 5 で内方に回動させることによって全体が小型となり、コンパクトな形状となって保管スペースが小さくなり、また持ち運びが非常に便利なものとなる。

以上のように本考案は簡単な構成で非使用時に形状が小型でコンパクトになるヘッドフォンを提供するもので、その実用性は大きい。

4、図面の簡単な説明



第 1 図は本考案の一実施例を示す斜視図、第 2 図は同支点部の斜視図、第 3 図は同部の断面図、

4

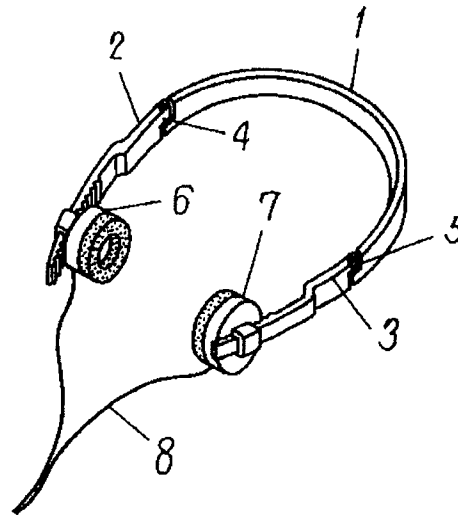
第4図は副アームを回動させた状態の斜視図である。

1……主アーム、2, 3……副アーム、4, 5
……支点、6, 7……ユニット。

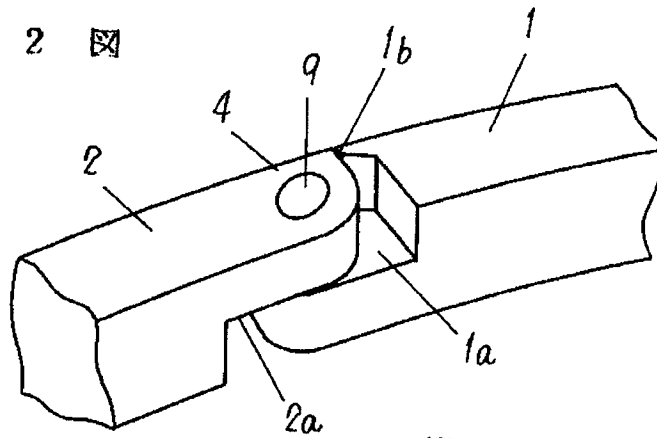
代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名



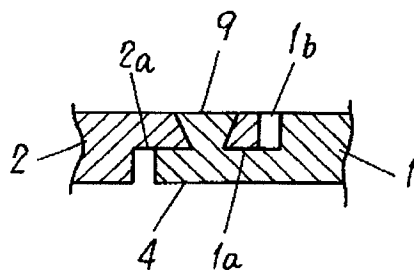
第 1 図



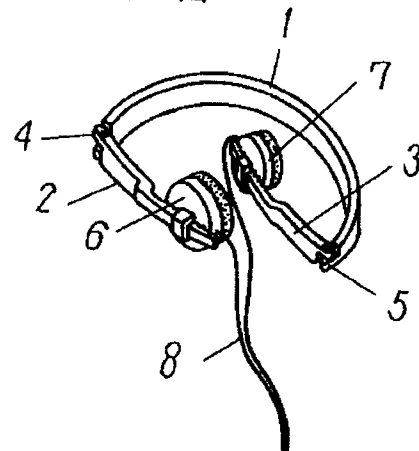
第 2 図



第 3 図



第 4 図



代理人の氏名

弁護士 中 尾 敏 男

ほか 1 名

22-21

6 前記以外の代理人

住 所 大阪府門真市大字門真1006番地
松下電器産業株式会社内
氏 名 (6152) 弁理士 栗 野 重 孝

